

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.126

夏日号

2025年7月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園**「ゆかり会」情報誌

浜名湖エデンの園

いつ起こるかは
誰にもわからない!

震災に備える ~東日本大震災の
体験と教訓から~

浜名湖エデンの園
施設係に聞く

防災体制の現在地



2024年度事業報告

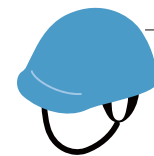
聖隷福祉事業団 理事長 青木 善治

いつ起こるかは
誰にもわからない!

震災に備える

～東日本大震災の体験と教訓から～

南海トラフ巨大地震の30年以内発生確率が80%程度と言われる今、多くの高齢者が入居する園にとって震災対策は非常に重要なテーマです。「もしもの時にどう備えればよいのか?」。東日本大震災を浦安エデンの園の園長として体験し、防災に精通する浜名湖エデンの園の前園長、溝口壱氏に話を伺いました。



みぞ ぐち まこと
溝口 壱
浜名湖エデンの園 前園長
浦安エデンの園にて
震災を体験

ご入居者の安心・安全が最優先
職員の一体感と園長としての覚悟

地震発生時は浦安も大きく長い間揺れていました。外では液状化による被害が出ており、東北で大被害が起きているとは知らず、どう対応するかに必死でした。マニュアルは外に避難、でも外は危険と判断し、建物の安全を確認できたところでご入居者を居室に戻すように指示。全居室を点検し、安否確認を終えてから、職員を3つのグループに分けました。食事サービス課を中心に夕食の準備、ケアスタッフはご入居者の不安感を取り除くように寄り添い、事務スタッフはそれ以外の全てに対応しようと。こういう時はいつも以上に職員が一つになるもの

です。その一方で、私の指示で全てが動きまわらず、判断を間違えて何かあれば、自ら責任を負う覚悟であらゆる問題に対処しました。計画停電でエレベーターを停止する時は、ご入居者と口論になることもありましたが、ご入居者の危険度を軽視した職員には、取立てみんなの前で叱りました。私の判断の軸は常に「ご入居者の安心安全」でした。これは私が聖隷で長く働く中で叩き込まれた信念です。無意識に即断でき、大きな間違いがなかったのは、そのお陰だと思っています。

一番困ったのは、液状化の被害で水が使えなかったことです。何とか食料を確保し、園の貯水タンクへの補充も市と調整できたので、朝夕と毎日食事を提供することができましたが、食器は洗えない。当時はラップで包むという知識がなかったで、紙容器があつと言う間に底をつきました。買おうにも物がありません。聖隷が凄かったのは、必要物資の調達力。震災翌日には、浜松に災害対策本部が立ち上がり、大きな被害がなかった松戸ニッセイエデンの園から水などを配送、3日目からは浜松からのチャーター便のトラックで毎日、必要物資が届きました。

浜松でも手に入らなくなると、宝塚や松山の他のエデンの園の職員が購入し配送。これは一都六県に展開する施設でなければできないことです。

いざという時にどう動けるか
形だけの防災訓練では意味がない

一番良かったのは食事を毎日3食提供できたことです。温かい食事は安心感を生みますから。他にも、洗濯便の手配、お風呂は再開していた銭湯へバスで送迎するなど、適宜判断して進めました。当時も防災計画があり、訓練も行っていました。実際に行った対応は全く違います。何が起るかわからない、特に震災では計画通りにはいかない事を知りました。その教訓は、園で行う防災訓練に生かしています。形式上になりがちな訓練の、シナリオを作り過ぎず、現場の指示でどれだけ適切に動けるかを確認する場にしました。そこから発見できることも多く、参加したご入居者からの色々な意見を吸い上げて対処法を検討しています。計画通りにいかなくても、訓練や議論を交わすことは重要です。それが、いざという時の考え方や心の準備につながります。



溝口氏からバトンを引き継いだ新園長より

ご入居者の命を守る使命を胸に

ほそだ しげのり
浜名湖エデンの園 園長 **細田 成則**

以前から何度も聞いてはいましたが、今回の溝口さんの体験談に触れ、改めて身が引き締まる思いです。園長就任にあたり、500名前後のご入居者と約170名の職員の命を預かる責任の重さを痛感すると共に、何よりもご入居者の命を守ることが一番だと自分に言い聞かせています。震災時は、現場を見ている者がその場で判断するしかありません。経験のない私に判断ができるだろうかと不安にもなりますが、溝口さんと同じく、私にも聖隷魂があります。何よりも「ご入居者の安心・安全」を胸に、園長の職を全うしていきたいと思っています。



教訓を生かし進化する
浜名湖エデンの園の防災体制
最大の強みは耐震強度1.5倍の新棟

震災後、エデンの園含め聖隷福祉事業団全体の防災体制も年々進化しています。事業団として浜松、関東、関西の9拠点に法人専用データ帯域を利用した通信端末を計10台導入し、通信不能に陥ってもすぐに情報共有できるように。自家発電機能を持たない施設の電気供給用に公用車をEV車に。常備用の食糧は3日分から7日分に、非常電源用の軽油も備蓄しています。また、浜松が本部機能を失ったら関東に、両方駄目なら関西に、どこでも本部が

機能する体制も整えました。浜名湖エデンの園の最大の強みは、2020年に完成した新棟です。居室だけでなく共用部も集中しており建築基準法の1.5倍の強度を持っています。厨房機器は、非常電源で供給し、災害時の食事提供も可能です。ここが一番安全だと胸を張って言えるのは、何よりも心強いです。全てはご入居者の安心・安全を守るため。この信念は誰が園長になっても変わりません。震災に備える上で、それが一番大切なことだと思います。※3〜6号館も新耐震基準の強度がある建物です。

浜名湖エデンの園 防災体制

煙マシンによる
煙体験



防災訓練の
様子



消火器取扱い
訓練



聖隷福祉事業団の防災体制

浜名湖エデンの園に全エデンの園の園長及び防災担当者が集まり、BCP机上訓練を実施しました。BCPとはBusiness Continuity Planningの略で、災害や感染症などの緊急事態が起こった際に企業が事業を継続していくための計画のことで、介護事業においては2024年4月より義務化がスタートしています。



自然災害発生時
業務継続計画
(BCP)
机上訓練の様子



浜名湖エデンの園 施設係に聞く

防災体制の 現在地

約170名の職員が働く浜名湖エデンの園で、建物や設備の管理を担当するのが運営管理課の施設係。防災訓練など震災に備える業務の最前線も担う部署の嘉手苺係長と新人の吉田さんに、防災の現状について話を聞きました。

備蓄品の管理や各居室の安全確認
ご入居者の安心を裏で支える

浜名湖エデンの園の施設係は全6名。建物の修繕管理をはじめ、電気、給排水、空調など、あらゆる設備の正常稼働を担い、居室の改修工事の管理なども行います。入居時には家具類が倒れないかを安全確認し、半年に1回の消防設備点検で全戸を周る際にもアドバイス。「居室の様子を知ることが、いざという時のご入居者の安全確保につながります。ご入居者には何でも相談していただけるよう、普段から声掛けするようにしています」という心強いチームです。

園全体の防災も施設係の大事な仕事。年3回の防災訓練（地震、火災、夜間想定）、年2回の消火器の取扱い訓練、食料や水などの防災備蓄品、懐中電灯や避難器具の管理、防災マニュアルの更新など多岐に渡ります。2025年6月には、避難時に使用する段ボールベッドや仕切り板も用意しました。

防災盤で災害に素早く対処
最新技術を駆使して命を守る

建物内には火災やその他の緊急時に、火災報知設備、消火設備、排煙設備など様々な防災設

りありません。エデンの園には欠かせない縁の下の力持ち施設係が、ご入居者の安心・安全を支えています。

ご入居を検討中の皆様へ

高齢になるにつれ、「もし自宅が災害に巻き込まれたら」と不安を感じる方も多いでしょう。一人暮らしであれば尚更です。浜名湖エデンの園には、守ってくれる建物、設備、人がいます。その安心感を体験入居ぜひ実感してください。



かでかりてつ
嘉手苺 哲

浜名湖エデンの園
運営管理課 施設係 係長



よし だ たく や
吉田 卓矢

浜名湖エデンの園
運営管理課 施設係

